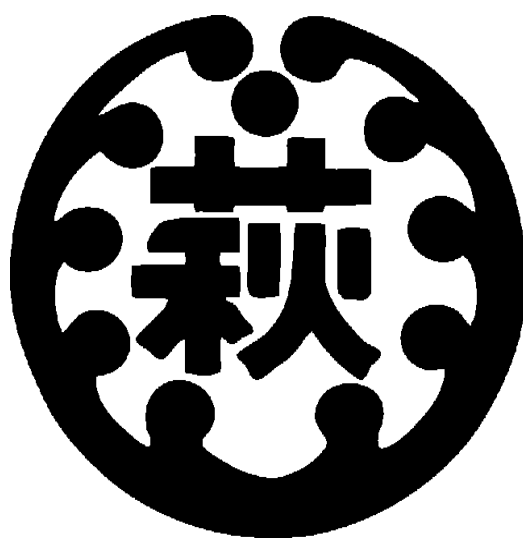


令和4年度

学校評価報告書



浜松市立萩丘小学校

1 学校教育目標と評価項目

(1) 学校教育目標

「いい顔 いい友 いい学校 ～かかわりの中で自分を磨く子の育成～」

(2) 付けたい力

◎かかわる力 (人間関係形成・社会形成能力)	やりぬく力 (自己理解・自己管理能力)	めあてをもち学ぶ力 (課題対応能力)	なりたい自分を考える力 (キャリアプランニング能力)
<ul style="list-style-type: none"> ○考えや思いを発信する ○相手の言葉を受け止める ○自他を大切にしておかかわる ○互いの意見を聞き、トラブルを自分たちで解決する ○自分の役割を果たす 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身を知る ○物事を前向きにとらえる ○最後まであきらめない ○自分のことを律する ○正と思ったことは行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ目的をもつ ○課題を自分で見付ける ○協働を通して考えを広げ、深める ○自分の学びを修正する 	<ul style="list-style-type: none"> ○なりたい自分を思い描く ○実現のための計画を立てる ○学習・行事と自分の将来とのつながりを意識して取り組む

これら4つの力は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育成することをねらいとして、第3次浜松市教育総合計画でも進められているキャリア教育を軸として設定した。それぞれの力を付けるために17項目の具体的な取り組みを設定し、各教育活動のねらいと関連付けて指導を行った。

(3) 評価項目

① 子供は、安心して楽しく学校へ通っている。
② 子供は、友達を大切にしてお、仲良く生活している。
③ 子供は、自分の決めたことを最後までやりぬこうとしている。
④ 子供は、めあてをもって学習に取り組んでいる。
⑤ 子供は、夢や目標をもっている。
⑥ 子供は、学校で学習したことを身に付けている。
⑦ 子供は、自分から進んであいさつをしている。
⑧ 学校は、教育活動や子供の様子を分かりやすく伝えている。
⑨ コミュニティ・スクールの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。

※ (3) 評価項目の評価を11月にアンケートで行い、児童583名・保護者594名・職員31名から回答を得られた。以降の資料は「そう思う」「大体そう思う」の肯定的な評価を合わせた割合(%)を示している。

2 自己評価

① 「かかわる力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
① 子供は、安心して楽しく学校へ通っている。	93	94	100
② 子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。	95	97	100
⑦ 子供は、自分から進んであいさつをしている。	84	79	81
⑨ コミュニティ・スクールの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。	95	79	100

<アンケート調査の考察>

「かかわる力」に関連する評価項目は、どれも割合が高いことが分かる。

特に②「子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。」では、児童・保護者・職員の全てにおいて95%以上の高い結果になっている。これは、友達とのかかわりを重視した授業研究や、各行事において友達のよさに目を向けたり、友達がいるからこそ成功につながる体験を繰り返したりしてきた結果であると考えられる。また、毎月「ピアの日」を設定し、学級や学年でピアサポート活動を行っている。ピアサポート活動を通して、友達のよさや自分との違いに気付くようになり、友達を大切にしていく意識を高めるようにしている。これらが②の友達を大切にすることや①の安心して学校へ通っている項目の割合を高めることにつながっているのだろう。

⑦「子供は、自分から進んであいさつをしている。」では、他の項目と比べて若干低い結果となっている。「進んであいさつ」をすることができていないと感じる児童・保護者・職員が一定数いることが分かる。あいさつに関しては、毎月、学年ごとに生活のめあてに取り入れ、継続して指導を続けている。あいさつをさらに向上させたいという思いがあることが分かった。

⑨「コミュニティ・スクールの取り組み」は、児童や職員の割合が高いことから、教育活動を充実させてくれていることを実感していることが分かる。外部講師との連絡・調整を進めたり、授業のサポートのための保護者ボランティアを募集したりと、児童の教育活動が大変充実していることに感謝している。保護者の割合が79%であり、児童・職員と比べて低いが、令和3年度の同様の調査では73%程度であったことから、コミュニティ・スクールの活動の周知は進んでいることが分かった。コミュニティ・スクール便りやブログで発信する回数を増やしたことが、成果として表れていると考えられる。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が学校教育目標と「付けたい4つの力」を理解し、同じ方向を向いて指導している。そのため、児童もかかわる力を伸ばしてきている。
- ・ コミュニティ・スクールの取り組みが学習を大変充実させている。
- ・ 生徒指導へのチームで取り組む体制が整っている。また、職員間の相談しやすい雰囲気がある。

調査から考えられる弱み

- ・ あいさつをもっとできるようになりたいと思っている児童がまだ一定数いる。
- ・ 児童と職員が十分に成果があると考えている活動でも、まだ保護者に十分には伝わっていないことがある。

② 「やりぬく力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
③ 子供は、自分の決めたことを最後までやりぬこうとしている。	91	85	94

<アンケート調査の考察>

本調査は11月末に行ったが、7月にも同様のアンケートを行っている。7月のアンケートと比較して、児童は2%、職員は4%割合が高くなっている。これは、2学期に運動会と学習発表会という大きな行事が行われたことに起因すると思われる。それぞれの行事の練習が始まる前に、どの学年でも「その活動を通してどんな姿になってほしいのか」を学年全体に話す機会を設けた。そして、それをもとに個人の目標を立てるといった活動を行った。1学期からこのような活動を行ってきたが、大きな行事で特に意識付けられたことから、割合が高くなったと考えられる。また、活動後に自分の目標を振り返る機会も設けた。こうすることによって、児童が自分の決めたことを最後まで頑張ろうとする意識の育ちにつながったのだろう。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が「付けたい4つの力」を理解するとともに、行事を節目として、「めあて→行事→振り返り」という流れの指導を、どの学年でも同様に行うことができた。職員が同じ方向を向いて指導しているため、児童もやりぬく力を伸ばしてきている。

③ 「めあてをもち学ぶ力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
④ 子供は、めあてをもって学習に取り組んでいる。	90	78	94
⑤ 子供は、学校で学習したことを身に付けている。	91	89	97

<アンケート調査の考察>

④「子供は、めあてをもって学習に取り組んでいる。」では、授業の始めには必ずめあてをもたせ、その授業で何ができるようになれば良いのか、何が分かれば良いのかを明確にすることを、継続して行ってきた。体育科の持久走でも個人の目標を立てさせ、それに向けて練習するようにしている。また、行事の前にも個人のめあてを立てさせることで、長期的なめあてと短期的なめあてを繰り返しもたせてきた。児童が「めあてをもって学習に取り組む」経験を繰り返してきたことで、児童自身が学び方を身に付けることができるようになったと考えられる。

⑤「子供は、学校で学習したことを身に付けてる。」は、7月の調査と比べて職員の割合が10%上がった。職員が個に応じた対応を意識し、児童に分かる授業をすることを心掛けていることが分かる。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が、児童全員が楽しく、分かる・できる授業づくりを工夫している。
- ・ 職員が個に応じた指導を心掛けている。その際、チームで個に応じた対応をすることができている。

調査から考えられる弱み

- ・ 児童が自分自身のめあてをもち学習に取り組んでいることが、保護者まで伝わっていない。

④ 「なりたい自分を考える力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
⑥ 子供は、夢や目標をもっている。	90	74	97

<アンケート調査の考察>

⑥「子供は、夢や目標をもっている。」は、前ページの「めあてをもち学ぶ力」でも述べたように、時間を掛けて目指すめあてをもたせることを行ってきた。ここで言う「夢や目標」は、将来の職業だけではなく、「こんなことをしたい」「こんな人になりたい」という内容を含んでいる。学年によっては、年度初めに各学級でどのようなクラスにしたいかを話し合い途中で振り返る活動や、毎学期の初めにその学期のめあてを決めるとともに学期末に振り返る活動などを設けてきた。また、キャリアパスポートを活用して1年間やこれまでの小学校生活を振り返らせ、これからの自分について考える時間も設けている。これらの活動が「めあてをもち学ぶ力」の向上に役立っていると思われる。

しかし、保護者の割合が低かった。学年便りやブログで日々の活動の様子を発信してはいるが、これらの項目については少なかったかもしれない。発信の仕方も工夫したい。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が、付けたい力を念頭に置き、行事や活動の前に目標を持つ時間をどの学年も設けることができた。

調査から考えられる弱み

- ・ 児童が夢や目標をもち学習に取り組んでいることが、保護者まで伝わっていない。

3 何でも相談カード（いじめ対応）について

萩丘小学校 生活アンケート(令和2年度～4年度)

		1 授業は、楽しい ですか？		2 友達と楽しく生活 できていますか？		3 学校生活は楽しい ですか？	
年度	時期	楽しい	楽しくない	楽しい	楽しくない	楽しい	楽しくない
2年度	1学期	96.8%	3.2%	97.8%	2.2%	97.8%	2.2%
	2学期	96.8%	3.2%	98.0%	2.0%	98.1%	1.9%
	3学期	98.1%	1.9%	98.4%	1.6%	99.1%	0.9%
3年度	1学期	95.7%	4.3%	97.3%	2.7%	97.2%	2.8%
	2学期	97.1%	2.9%	97.4%	2.6%	98.5%	1.5%
	3学期	98.5%	1.5%	97.7%	2.3%	98.8%	1.2%
4年度	1学期	95.1%	4.9%	97.4%	2.6%	97.8%	2.2%
	2学期	95.1%	4.9%	97.4%	2.6%	97.8%	2.2%
	3学期	97.5%	2.5%	98.8%	1.2%	98.8%	1.2%

1番目の「授業は楽しいですか？」は、「楽しい」、「どちらかという楽しい」を合わせた「楽しい」が97.5%になっている。「どちらかという楽しくない」、「楽しくない」を合わせた「楽しくない」は、2.5%だった。この結果は、1年間で最もよい結果であった。

2番目の「友達と楽しく生活できていますか？」は、「楽しい」が98.8%、「楽しくない」が1.2%だった。こちらも、今年度で最もよい結果であった。1年間を通して、友達とよいかかわりができるようになり、安心して生活することができるようになったのではないかと考えられる。

3番目の「学校生活は楽しいですか？」は、「楽しい」が98.8%、「楽しくない」が1.2%だった。こちらも1年間で最もよい結果であった。

萩丘小学校のいじめ（令和2年度～4年度）

年度	時期	訴え 人数	いじめ 総数	仲間 はずれ	無視	かみざ口	からかい	悪口	たたか れる	けられる	ぶつかっ てくる	ものを とられる	ものを こわれる
2年度	1学期	48	71	6	7	2	11	14	9	5	5	9	3
	2学期	58	82	11	5	4	12	18	16	4	5	4	3
	3学期	47	70	8	5	3	7	15	12	10	4	5	1
3年度	1学期	94	155	10	11	9	15	34	28	23	13	8	4
	2学期	78	104	9	5	9	14	18	18	8	11	10	2
	3学期	61	104	6	2	8	14	16	24	11	15	6	2
4年度	1学期	94	159	14	9	6	14	31	36	14	13	20	2
	2学期	77	135	13	5	5	23	23	24	17	13	7	5
	3学期	67	109	11	4	7	13	23	18	8	12	9	4

2学期と比べると、いじめを訴えた人数といじめの数が減っている。一人一人が自分の言葉や行動に気を付け、相手を思いやり、友達と良い関係を築こうとしてきた結果かもしれない。

しかし、内容を見ると、「悪口」、次に「たたかれる」がまだまだ多い。悪口を言った人やたたかれた人は何とも思っていないくても、悪口を言われた人、たたかれた人はとてもつらい思いをしている。

そして、以下のことを全校に伝えた。

「相手がいやだなと思うことは、すべていじめです。やっている自分お遊んでいたり、ちょっとふざけたりしているつもりでも、相手が傷ついていたり、嫌な気持ちになっていたりしたら、それはいじめです。どんなことがあっても、いじめは絶対に許されません。いじめは、いじめられた子はもちろん、いじめている子も、周りで見ている子もみんな傷つきます。人がいやがることをしない、言わない、そのことを守っていきましょう。

また、相手に腹を立てることがあっても、すぐに暴力をふるうのではなく、まず自分の思いを相手に伝えるようにしましょう。思いを言葉で伝え合うことで、互いに嫌な思いをしなくてもすむことは少なくありません。話し合っ解決できるようになれば、いじめは少しずつ減っていくと思います。

もし、いじめを受けたり、いじめの場面を見たりした子がいたら、勇気を出してすぐに先生や友達、おうちの人に知らせてください。知らせることで、つらい思いをしている子を助けることができます。知らせることは、正しいことです。

いじめはしない、させない、見逃さない、いじめストップです。

今年度、みなさんの優しい姿、思いやりのある姿をたくさん見てきました。みなさんなら、きっと、もっともっとその優しさ、思いやりを広げていけるはずです。ぼくはそう信じています。

さあ、来年度もみんなの力を合わせて、いい顔 いい友 いい学校の、笑顔あふれる、明るく楽しい萩丘小学校にしていきましょう。」

4 学校関係者評価

2月20日（月）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

- ・ 概ね良い方向に向けて進んでいることが分かった。
- ・ 子供も職員も、同じ目標に向かって取り組んでいる姿勢がすばらしい。
- ・ 「何でも相談カード」に書かれたことに対して、教師の丁寧な対応がなされていることが分かった。個々に対応することで、信頼関係が築かれると感じた。
- ・ 保護者と子供・職員との数値の差は、保護者の学校行事への参加が減ったことによるのではないかと。今後、参加が増えれば、変化が現れるだろう。
- ・ 保護者にも子供の頑張りが伝わるように、具体的な取り組みを行ってほしい。
- ・ ここ数年、新型コロナウイルスの影響で、学校行事が見られなくて残念。また見られるようになると良い。

5 来年度に向けて

自己評価と学校関係者評価を基に、できていることは継続して行い、課題となる点について改善を図る。

- ・ 職員が学校教育目標と「付けたい4つの力」を理解し、全員が同じ方向を向いて指導している。そのため、子供も力を付けてきている。来年度も職員が方向性や手立てを共通理解できるように、呼び掛けたり会議を設けたりする。
- ・ 行事を節目として、意図的な指導を行うことができた。学年主任を中心として、学年全体でかわりを大切にすることを継続する。
- ・ 職員がチームで生徒指導対応をするとともに、保護者や地域と連絡を取り合いながら指導を行っている。このことにより、個別の対応が機能している。生徒指導体制も継続したい。
- ・ コミュニティ・スクールの取り組みは大変充実している。学習へのサポートは継続していきたい。本年度はコロナ禍で縮小したり中止したりした活動があったが、徐々にできるようになると思われる。保護者や地域の方に、学校の教育活動への理解を深めていただく機会となるため、少しずつ実施できるものを増やしていきたい。
- ・ 「あいさつ」「夢や目標」「学習」などについては、「もっとできるようになりたい」と思っている児童が一定数いるため、個別の対応をさらに充実させたい。そのために、生徒指導体制を見直したり、ICTの研修を深めたりする。
- ・ 児童と教員が、十分に成果が出ていると考えている項目でも、保護者に伝わっていないことがあった。便りやブログの内容を工夫したい。